

「ポッコちゃん」 中1



バーのマスターが作った、精巧な美人のロボット、ポッコちゃん。店のカウンターの中におかれたポッコちゃんを、誰もロボットだと気が付きません。楽しい短編が全部で50編入っています。

星新一著
新潮社 578円

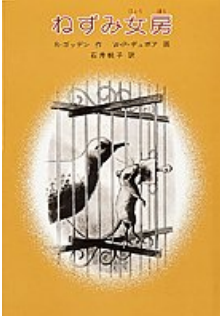
「えんの松原」 中2



華やかな大内裏の中にある『えんの松原』。そこは怨霊たちのたむろする“魔所”だという。女童(めのわらわ)の音羽が出会った少年は、怨霊の影におびえていた。

伊藤遊 作／太田大八画
福音館書店 1575円

「ねずみ女房」 中3



家の中が世界のすべてだと思っていたねずみ。ある日やってきた”きじばと”は、そんなねずみに、閉じ込められた鳥かごの中で外の世界のことを話してくれます。だんだん元気がなくなっていく、はと。ねずみはある日決心します。

ルーマー・ゴッデン作／W・P・デュホア画／石井桃子訳
福音館書店 1260円

「君たちへの遺産 白神山地」 中4



世界遺産の白神山地。その森の豊かな自然と、歴史・文化を紹介します。

齋藤宗勝著
アリス館 1470円

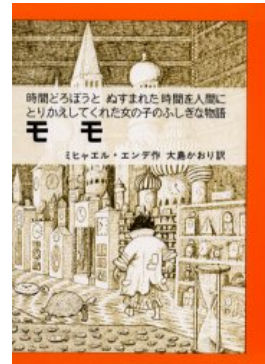
ブックリスト

本のもり

＜中学校編＞

子どもの読書活動推進のための懇談会
*表示価格は税込定価です
(平成24年3月現在)

「モモ」 中5



“灰色の男たち”にそそのかされた人々は、良い暮らしをするためにと思い込み、必死で時間を節約し、せかせかと生きるようになりだした。モモは、時間どろぼうから、盗まれた時間を取りかえそうとする。

ミヒヤエル・エンデ作／大島かおり訳
岩波書店 1785円

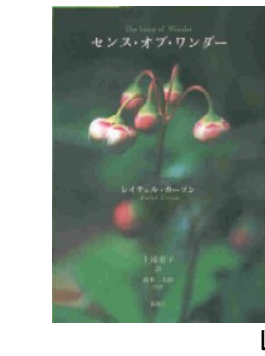
「100万回生きたねこ」 中6



100万回死に、100万回生きたねこがいました。その間、自分以外のものを愛したことのなかった彼が、ある時1匹きの白いめすねこに恋をします…。

佐野洋子作・絵
講談社 1470円

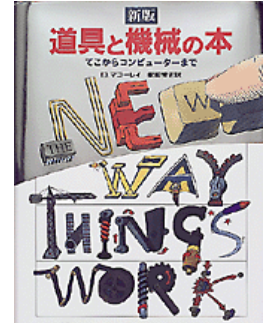
「センス・オブ・ワンダー」 中7



この本は、自然の美しさや神秘を子どもとともに、どのように感じあったらいいかを作者の実体験を踏まえ、味わい深く語っている。文中の写真は美しく、読む者の目をくぎづけにする。

レイチェル・カーソン著／上遠恵子訳
新潮社 1470円

「道具と機械の本」 中8



原始的な道具から現代的な機械の仕組みまでを、わかりやすいイラストで、原理によって分類し解説している本です。思わずうなってしまう一冊。

デビッド・マコーレイ作／歌崎秀史訳
岩波書店 7980円
(表紙は旧版)

「みんなのなやみ」 中9



なやんでいたっていいじゃないか。もやもやしてもそれでいい。なやみとのつきあいかたを、著者といっしょに考えていく。

★
重松清著
新潮社 620円
(表紙は理論社)

「病気の魔女と薬の魔女」 中10



かつて世界中で大流行したマラリヤやペストなどの病気を司る魔女達が、再び疫病を流行させる画策を行い、最も恐ろしい新型インフルエンザの魔女が仕事をするようになりました。かけ出しの薬の魔女ローズは、大疫病を阻止することができるのでしょうか。

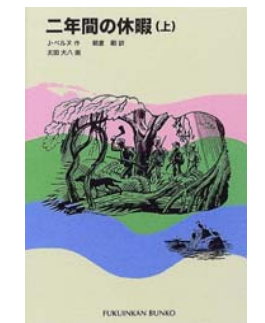
★
岡田晴恵著
学研マーケティング 1575円

京都市図書館では、子どもの読書活動の振興について、関係団体の皆様と『子どもの読書活動推進のための懇談会』を設け、その振興方策等を協議してきました。平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されたことを記念して、平成14年4月に子どものためのブックリストを作成しました。このリストには、子どもに読んでもらいたい本の中で、図書館や書店において入手できるものを、年代別に各30冊選びました。このブックリストが、子どもが本を読むきっかけになれば幸いです。平成24年4月

子どもの読書活動推進のための懇談会
・京都市教育委員会
・京都市子ども文庫連絡会
・京都市小学校図書館研究会
・京都市PTA連絡協議会
・京都市立中学校教育研究会図書館教育部会
・京都市私立幼稚園協会
・京都市保育園連盟
・京都府書店商業組合

★このマークのついている本は、シリーズがあります。

「二年間の休暇」 中11



15人の少年をのせた大型ヨットが、無人島に流れ着く。互いの偏見や反目を乗り越えて団結し、困難に立ち向かう少年たちの姿が描かれる。おなじみ「15少年漂流記」の完訳版。

ジュール・ベルヌ作／太田大八画／朝倉剛訳
福音館書店 2415円
(表紙は福音館文庫)

「ヒトラー・ユーゲントの若者たち」 中12



『とうとう現れた。わたしたちを、この混沌とした世界から救い出してくれる人が』多くの若者達がそう信じ、夢中になった。ヒトラーの熱い呼びかけを聞いて、ナチスに身も心も奪われていく多くの若者がいる一方で、ナチスに疑問を感じ、反旗をひるがえした若者達もいた。

S・C・バートレッティ著／林田康一訳
あすなる書房 1365円

「学校ともだち」 中13



あるクラスの「学級日誌」の形式で書かれたちよつと思議な物語。それぞれの悩みや思いがつつられ、担任のオズ先生も素敵な言葉をそえてくれます。

長野まゆみ著
河出書房 459円
(表紙は光文社)

「わたしと小鳥とすずと」 中14



やさしい詩、楽しい詩、少し悲しいさびしい詩…。金子みすゞの詩には、何か心にひびく温かいものがあります。

金子みすゞ著
JULA出版局 1260円

「弟の戦争」 中15



“ひとつの小さな体の中に戦争が丸ごとあった” 絶対的な正義の名のもとに行われた湾岸戦争。遠く、イギリスの地で少年は、弟をとおしてその戦争を見ることになる。

ロバート・ウェストール作／原田勝訳 徳間書店 1260円

「運命の騎士」 中16



時は、11世紀。イギリスはノルマン人の支配下にあり胎動の時期を迎えていたころ… 犬飼の孤児ランダルが、ついに騎士となるまでの数奇な運命が描かれています。

ローズマリ・サクリフ作／猪熊葉子訳 岩波書店 840円 (表紙は単行本)

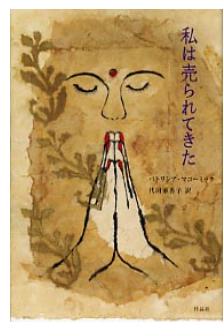
「君たちはどう生きるか」 中17



中学2年生のコペル君を通し、“人として生きる意味”を考えさせられる作品です。助言者役である彼のおじさんの存在が際立ちます。初版は1937年ですが、その内容は今なお少しも古くなっていません。

吉野源三郎著 ポプラ社 1260円

「私は売られてきた」 中18



これは現実に行き起きていることをもとにしたお話です。13歳のラクシューミーは、知らない国に売られて行きます。状況もわからないまま、強制的に働かされるつらい日々。それでも彼女は知る喜びを見つけ、希望を失いませんでした。

パトリア・マコーミック著／代田亜香子訳 作品社 1785円

「カラフル」 中19



死んだはずの僕は「抽選にあたって」下界に住む中学生、小林真の身体を借りて、“ホームステイ”することに。下界生活にまいもどった僕を待っていた生活は…。

森 絵都作 理論社 735円 (表紙は単行本)

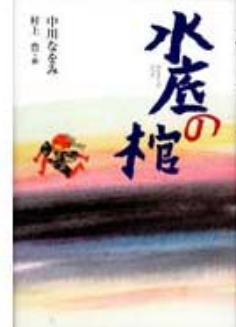
「正しいパンツのたたみ方」 中20



保健体育＝身体の感性をみがく教科、芸術＝心の感性をみがく教科、では家庭科は？ 家庭科とは暮らしの感性をみがく教科なのだ。自分の暮らしを整えるだけでなく、社会の中で他者とともに生きていく力を身に付けよう！

南野忠晴著 岩波書店 861円

「水底の棺」 中21



平安時代末期、狭山池は作物の育ため泥沼となった。小松は辛い思い出ばかりの故郷を出て京に向かう。東大寺再興に尽くす重源、その弟子蓮空、宋からきた恵海…。様々な人々と出会い、その生き様に触れた小松は、己と向き合い、逃げ続けた…。

中川なをみ作／村上豊画 くもん出版 1470円

「忘れ川をこえた子どもたち」 中22



“忘れ川”に囲まれた領主の館にクララとクラースの姉弟が、ガラス職人の両親が知らない間に連れてこられた。フクロウやカラスが言葉を話す中世の物語。幼い姉弟は、両親と再び会えるでしょうか…。

マリア・グリーペ作／大久保貞子訳 富山房 1529円

「思い出のマーニー 上・下」 中23



みんなの中にとけこめず、自分の中に閉じこもっているアンナ。都会を遠く離れた村での不思議な少女との出会いが、アンナの心を変えていきます。

ジョーン・ロビンソン作／松野正子訳 岩波書店 各672

「影との戦い ゲド戦記 I」 中24



人より優れた能力を持っていたゲド。その驕りの気持ちから、死の影を呼び出してしまう。その影に追われ、苦しみ続けるゲドは、やがて影と立ち向かう。その影の正体は…。

ル＝グウィン作／清水真砂子訳 岩波書店 1785円

「ツバメ号とアマゾン号 上・下」 中25



「オボレノロマハノロマデナケレバオボレナイ」 大好きな父からのゴーサインを受け、ウォーカー一家の4人きょうだいは、小さな帆船ツバメ号で湖の探検にでかける。無人島でのキャンプ、アマゾン海賊からの挑戦、宝探し、嵐の一夜…。子どもたちだけで過ごす夏休みの冒険物語。

アーサー・ランサム作／神宮輝夫訳 岩波書店 各798円

「蠅の王」 中26

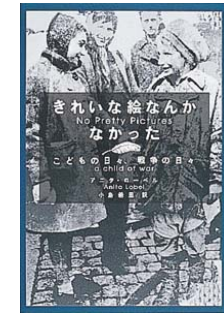


戦争のさなか、疎開する少年たちを乗せた飛行機が孤島に不時着した。大人は一人もいない。隊長を選び共同生活を始めたのだったが…。心の内なる闇について深く考えさせられる物語です。

ウィリアム・ゴールドディング作／平井正穂訳 新潮社 740円

「きれいな絵なんかなかった」 中27

—こどもの日々、戦争の日々



ユダヤ人であるためにヒトラーによって踏みじられた少女時代。被害者という立場を越えて、自らの体験をありのままに綴った絵本作家アニタ・ローベルの自伝。

アニタ・ローベル作／小島希里訳 ポプラ社 1680円

「西の魔女が死んだ」 中28



登校拒否だった中学1年の時、まいは“魔女”とよぶ英国人の祖母と生活を始める。自然に抱かれ祖母と暮らすうちに、まいは生きる力を取りもどす。

梨木香歩作 新潮社 420円 (表紙は小学館)

「飛ぶ教室」 中29



ドイツの寄宿舎でクリスマスを迎える準備におおわわの子どもたち。でもそれぞれに家庭の事情が見えかくれしている。やがて子どもたちは、友だちや先生との深い心の結びつきが、自分の成長を助けてくれることを知る。

エーリヒ・ケストナー作／高橋健二訳／ワルター・トリヤー絵 岩波書店 1680円 (表紙は函)

「ハートビート」 中30



12歳のアニーは、はだして大地をふみしめ走る。アニーの母親の中では、赤ちゃんが少しずつおおきくなり、それに呼応するように、これまでいつもかしく頼りになった祖父は、日に日に弱っていく。家族それぞれの命のリズムをみつめる、散文詩形式の作品。

シャロン・クリーチ作／もきかずこ訳 偕成社 1470円